

2 OSA 推進担当 (API-gallery™)

「API gallery™」で実現される 国内最大級の金融 API エコシステムの姿

株式会社NTTデータ(以下、NTTデータ)は、2021年10月に国内最大級の金融APIエコシステムである「API gallery」を開設する。本稿では「API gallery」の概要に加え、それを支える「Open Canvas Atelier®」の取り組みや今後の構想等について紹介する。

世界のOpen APIの潮流と 日本のAPI普及に向けた課題

EUでは2018年1月にPSD2(第2次決済サービス指令)の運用が開始された。これにより金融機関等が保有する個人の口座情報や取引情報などのデータの開放が進み、多くのプレイヤーの参入が進んだ。また、イギリスでは2018年1月に大手銀行にAPIを第三者開放して、顧客の口座情報等のデータを、認定を受けた他の企業等に提供する「オープンAPI」が義務づけられた。

これらの潮流を踏まえて、日本でもOpen APIの議論が進み、2017年に銀行法が改正され、2020年にその猶予期間が終了し、本格展開時期を迎えた。

しかし、日本に置けるオープンAPIの取組は広がりを見せているとは言いがたい。その理由としてAPI接続に関するAPI提供者、API利用者の手続きが非常に煩雑であるということが挙げられる。API提供者とAPI利用者はN:Nの構造になっており、双方がどのようなAPIがあるかを理解し、それを利用することでどのようなサービスが実現され、どのようなメリットが生じるかを理解するス

テップに進むまで、非常に時間がかかっているのが実情である。

APIマーケットプレイスの発展

海外ではこれらを解消する手段としてAPIの市場であるAPIマーケットプレイスが幅広く活用されている。様々なAPIが一覧化され、自由に検索可能である。また、そのサイト上で仕様を確認するだけでなく、その場でAPIの動作をサンドボックス的に試してみることも可能であり、APIを活用したより柔軟なビジネス創発を可能としている。

我が国においては特定企業やプラットフォームの提供するAPIを活用する為のAPIマーケットプレイスは存在するものの、特定の企業によらな



株式会社NTTデータ
バンキング統括本部 OSA 推進室 OSA 推進担当
(左から) 青柳 雄一氏 島村 純平氏

い幅広いAPIが提供されるパブリックなAPIマーケットプレイスが存在せず、その登場が待たれる所であった。

国内最大級の金融APIエコシステム「API gallery™」

NTTデータは「Open Service Architecture®」を2020年10月に発表し、その最終的なゴールである金融におけるOpen Innovation実現

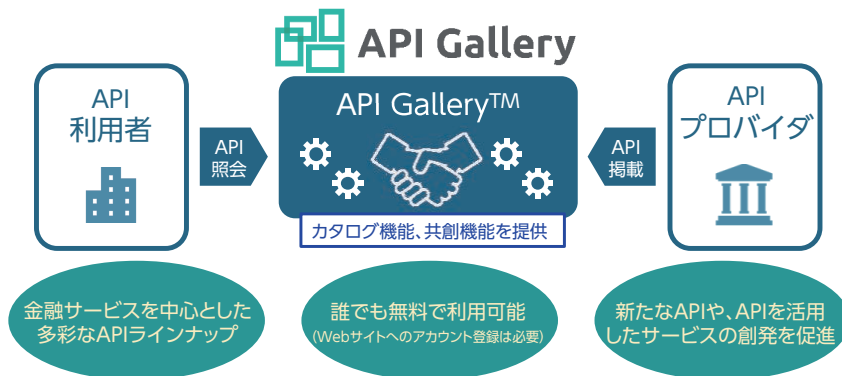


図1 「API gallery™」概要

に向けて、API マーケットプレイスも整備することを表明していた。2021年10月に開設される「API gallery」はこれらのコンセプトに基づいた日本で初めて特定の企業/団体のAPIではなく、パブリックな立場でAPIの提供/利用を促進するAPIマーケットプレイスとなる。

「API gallery™」の特徴は以下の通りである。まず、中立的な金融APIマーケットプレイスであるという点だ。NTTデータのANSERサービスを利用する銀行APIだけでなく、それ以外の銀行APIやFinTech、マイナンバー連携等の行政API等、幅広いAPIが掲載される予定である。これらのAPIを容易に検索出来、仕様やユースケースの確認、APIテストの申込等が可能である。

その上、APIという単位だけでなく、それらを包含したソリューションとしても掲載可能であり、より利用者がビジネスシーンを想像しやすい工夫がなされている。

また、単なるAPI利用だけでなく、共創の場としての利用が可能である。APIの提供者とAPIの利用者がSlack等のツールで直接繋がることが出来、既存のAPIに関する問い合わせだけでなく、新しいAPI等に関するアイデアを出し合い、新ビジネス創発に繋げることも可能である。

「API gallery™」を支える「Open Canvas Atelier®」の取り組み

非常に移り変わりの激しいAPI利用の現状に追随する為に、NTTデータでは従来の開発手法ではなく、大規模アジャイル開発手法であるSAFeを採用して「API gallery」

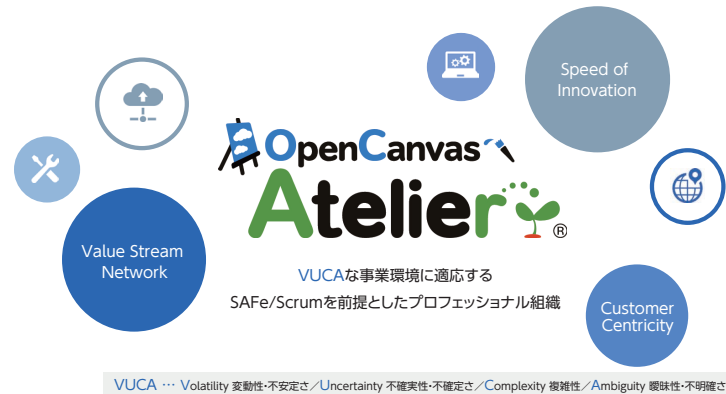


図2 「OpenCanvas Atelier®」

の構築・運用を行っている。この為、金融におけるSAFe専門組織である「Open Canvas Atelier®」をフル活用してことも特色として挙げられる。

島村氏は「Open Canvas Atelier®」の特徴を以下の様に述べている。「これまでの金融システムは信頼性と堅固性が求められる一方でアジリティは犠牲になっていました。しかし、金融機関にとってもVUCAな事業環境への適応が求められるようになってきました。そこで我々はそのトレンドを先取りし、金融機関向けシステムで実績のあるANSERの開発部隊の中に、アジリティを追求した『Open Canvas Atelier®』を設置し、信頼性とアジリティを両立することを目指しました」。

「Open Canvas Atelier®」は3つの特徴を持っている。1つはNTTデータと連携したUX/UIのクイパビリティ。2つ目はSAFeによる大規模アジャイル開発。3つ目が既存ANSERとのシナジーである。これらの既存インフラを活用し、UI/UX、アジャイルプロセスを活用することで、金融機関にとって真に必要なサービスを柔軟かつアジリティ高く創出することを可能にしている。

APIエコシステムのその先へ

NTTデータの金融分野では「Open Service Architecture®」のコンセプトに基づいて、金融エコシステムを一層強力に推進していく予定である。

特に最近急速に日本国内でも進展しつつある組込型金融(Embedded Finance)等への対応について、青柳氏は次のように抱負を語る。

「APIというと銀行側が口座ホルダーの情報を一方的に開放するイメージがありますが、それはAPIのごく一面でしかないと云えます。FinTechのAPIを銀行サービスの中に上手く組み込んでデジタルクイパビリティを向上させた上で、複合的なサービスとして事業会社へ金融機能を提供していくEmbedded Financeという形が急速に進展していくと想定しています。これらの双方向でのAPI活用について、『API gallery』が上手く共創の場として利用され、日本の金融機関におけるデジタルシフトや金融×行政、一般企業等の業際ビジネスを一層発展させる後押しが出来ればと思っています。これらの活動を通じて、ポストコロナの新しい金融IT像を創っていくことに貢献したいと思っています」。